

『インドの投資環境について』

JICA アジア投資セミナー

平成29年11月

インド：デリー・ムンバイ産業大動脈開発公社 (**DMICDC**)

インフラ開発・投資促進アドバイザー (JICA 専門家)

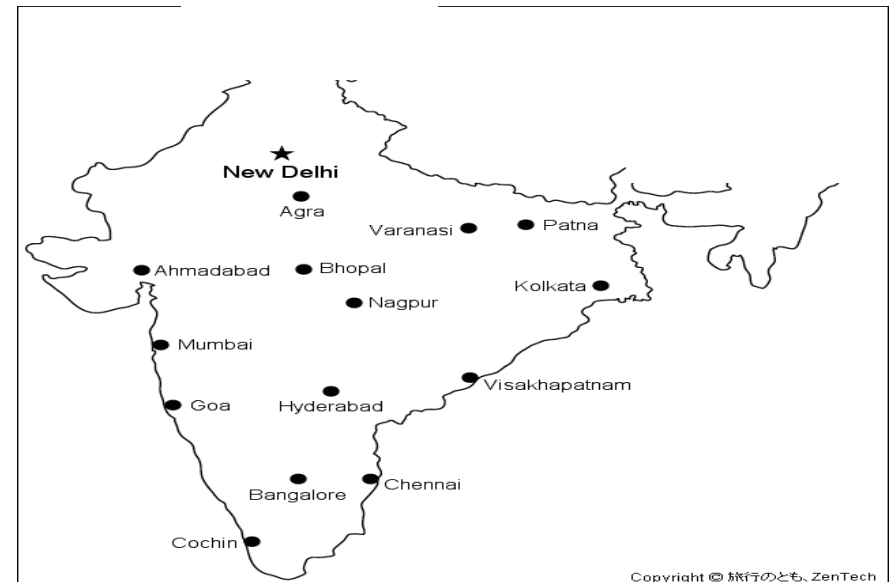
村山 勝彦

目 次

- I. インドの概要
 - II. インドの政治情勢について
 - III. インドの経済情勢について
 - IV. インド市場について
 - V. インドのインフラ開発について
 - VI. インド市場の**SWOT**分析について
 - VII. **JICA**専門家の役割について
- 参考

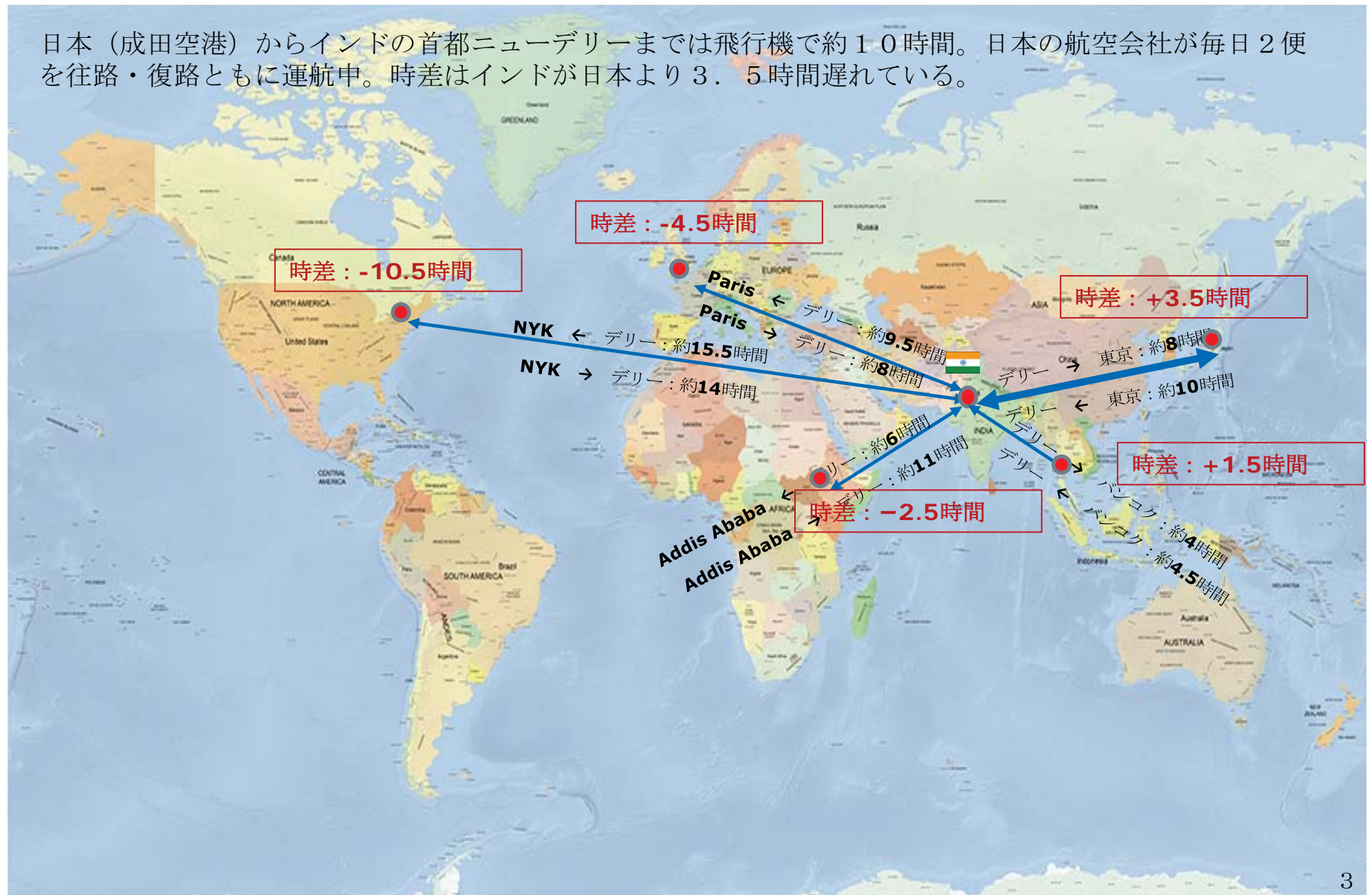
I. インドの概要：基礎情報

国名	インド	宗教	ヒンドゥー教79.8%、イスラム教14.2% キリスト教2.3%、シク教1.7%等
首都	ニューデリー	国旗	サフラン・白・緑の横三色に中央に「ア ショーカ・チャクラ (Ashoka Chakra) という法輪を配している。サフランはヒ ンドゥー教、緑はイスラ教、白は2宗教 の和解とその他の宗教を表す。
面積	328.7万km ² (世界第7位) 日本の9倍	識字率	73.0% (2011年国勢調査)
言語	ヒンドゥー語 他に憲法で公認されてい る州の言語が21	通貨	ルピー
GDP(名目)	2兆250億ドル (世界第7位/IMF)	Doing Business Ranking	130位 (190ヶ国中) 中国78位、日本34位 World Bank
GDP成長率	7.6% (IMF)		
一人当たりGDP	1,716ドル (IMF)		
人口	13億人 (2016年9月 IMF)		



I. インドの概要：基礎情報 2

日本（成田空港）からインドの首都ニューデリーまでは飛行機で約10時間。日本の航空会社が毎日2便を往路・復路ともに運航中。時差はインドが日本より3.5時間遅れている。



I. インドの概要：訪印旅行者数

TOP 15 SOURCE COUNTRIES FOR FTAs IN INDIA DURING 2014 & 2015

Rank in 2014	Country	FTAs in India in 2014	% Share in 2014	Rank in 2015	Country	FTAs in India in 2015	% Share in 2015	対前年比 %
1	United States	1,118,983	15	1	United States	1,213,624	15	8
2	Bangladesh	942,562	12	2	Bangladesh	1,133,879	14	20
3	United Kingdom	838,860	11	3	United Kingdom	867,601	11	3
4	Sri Lanka	301,601	4	4	Sri Lanka	299,513	4	-1
5	Russian Federation	269,832	4	5	Canada	281,306	4	5
6	Canada	268,485	3	6	Malaysia	272,941	3	4
7	Malaysia	262,026	3	7	Australia	263,101	3	10
8	France	246,101	3	8	Germany	248,314	3	4
9	Australia	239,762	3	9	France	230,854	3	-6
10	Germany	239,106	3	10	Japan	207,415	3	-13
11	Japan	219,516	3	11	China	206,322	3	14
12	China	181,020	2	12	Russian Federation	172,419	2	-36
13	Singapore	150,731	2	13	Nepal	154,720	2	22
14	Nepal	126,416	2	14	Singapore	152,238	2	1
15	Thailand	121,362	2	15	Pakistan	124,924	2	-
Total Top 15 Countries		5,526,363	72	Total Top 15 Countries		5,829,171	73	

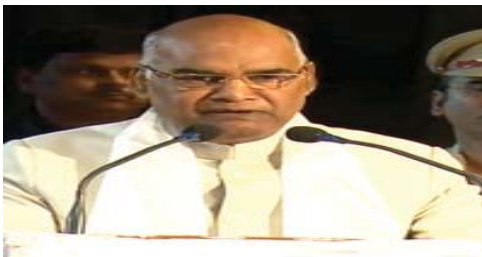
II. インドの政治情勢について-1

1. 政治体制

- ・インドの政治体制は共和制。大統領が国家元首。
- ・大統領の役割は形式的・象徴的なものであり、実際の権限は首相が握っている。
- ・政体は「議員内閣制」。

2. 議会

- ・連邦議会は二院制となっている。
- ・上院 (Rajya Sabha) は、各州及び連邦直轄領の選出委員で構成される。任期は6年で解散なし (2年毎に1/3が改選される) 定数: 250
- ・下院 (Lok Sabha) は、国民全体を代表する委員で構成される。任期は5年で解散あり。定数: 545



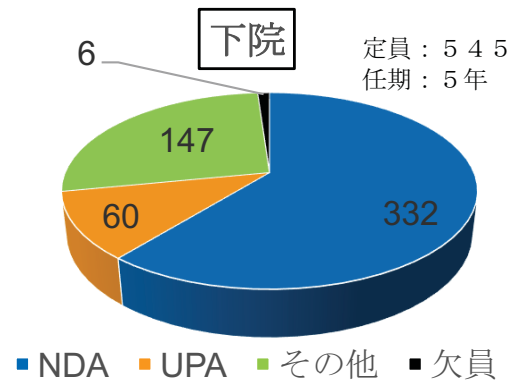
ラム・ナート・コービンダ大統領 (72歳)



ナレンドラ・モディ首相 (66歳)

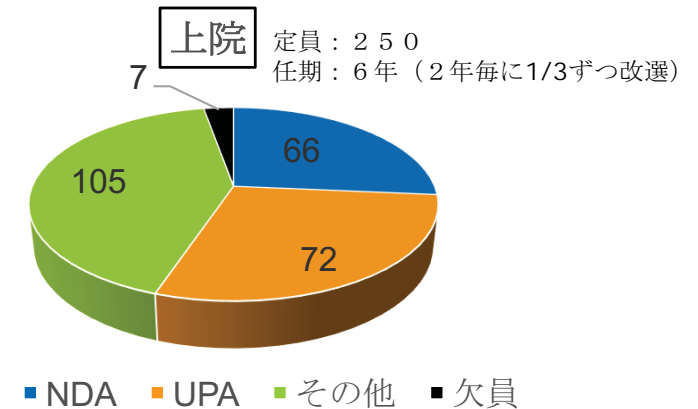
II. インドの政治情勢について-2

インドの議会勢力



NDA: National Democratic Alliance(与党)
【国民民主連合】

UPA: United Progressive Alliance(野党)
【統一進歩同盟】



モディ政権の取組み

- 2014年5月、下院総選挙で野党であったインド人民党（BJP）が10年ぶりに単独過半数を獲得。ナレンドラ・モディ首相が第18代首相に就任。
- 前政権で落ち込んだ経済の持ち直しに向け1) インフラ整備の推進、2) 外資規制の緩和、3) 税制改革、4) 汚職対策などへの取り組みを掲げている。この観点から様々な取り組みを実行中。
Make in India(製造業誘致)、Digital India(IT活用による金融サービスなどの提供)、Skill India(能力強化)、Clean India(公衆衛生の改善)、Housing for All(全ての人に家を)等々。

モディ政権の課題

- ねじれ国会の解消：いわゆる「モディノミクス」を確実に進めていくには上院で過半数を獲得し、ねじれを解消することが重要。
- 高額紙幣廃止の影響からの脱却：低所得者層を中心に不満が多い。
- GST(サービス税) 導入の実施：本年7月から実施済。
- 貧困層対策：GDPに占める農業の割合は15%程度と低いが、農業従事者が人口の65%程度おり対策は重要)

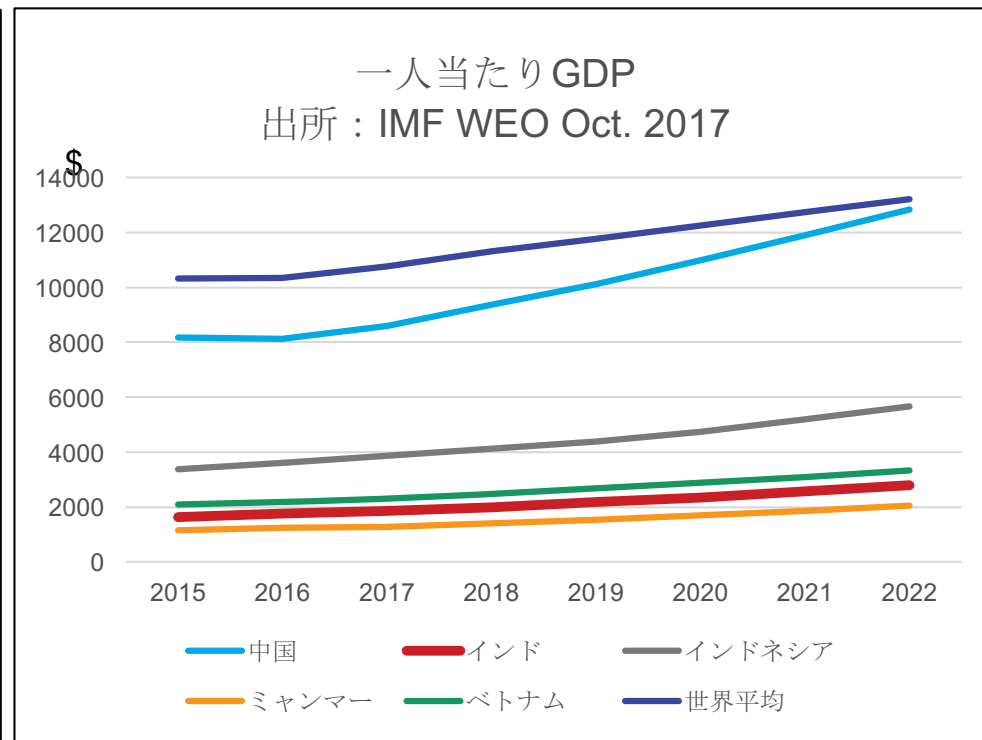
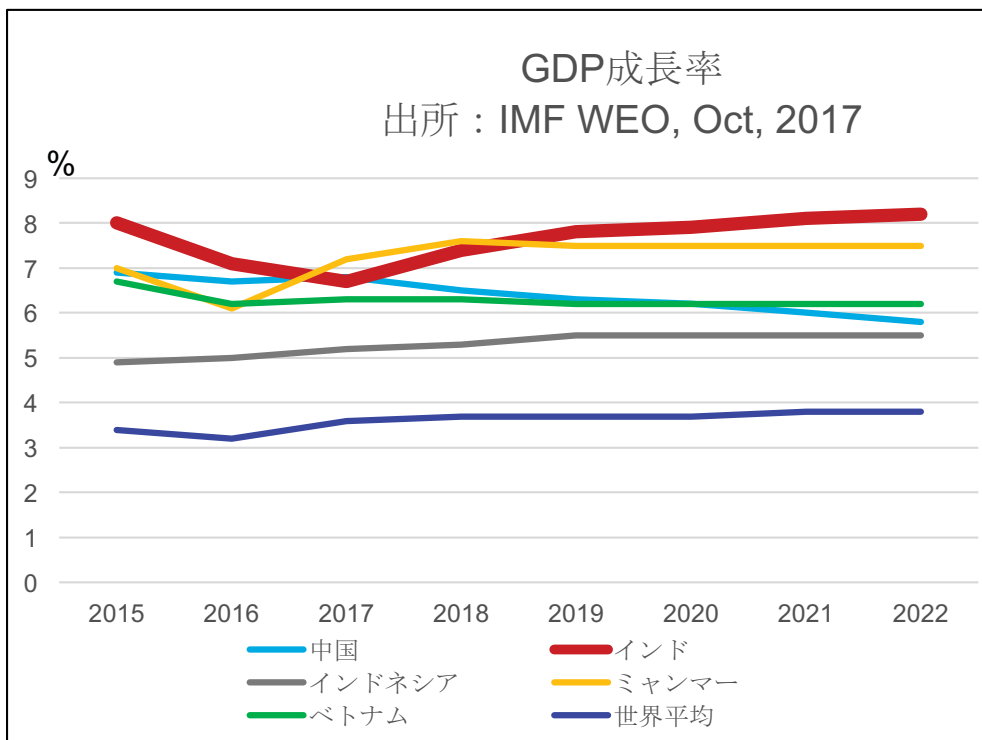
Ⅱ. インドの政治情勢：日印関係

- 1947年08月 英国領よりインド独立
- 1950年01月 インド憲法施行
- 1952年04月** 日印国交樹立（**2017年は65周年**）
- 1990年代 市場経済化へ移行
- 2000年08月** 森首相訪印「日印グローバル・パートナーシップ」構築に合意
- 2005年04月** 小泉首相訪印「日印グローバル・パートナーシップ」に戦略的方向性を付与
- 2006年12月** シン首相訪日「日印戦略的グローバル・パートナーシップ」構築に向けた取り組みに合意
- 2007年08月** 安倍総理訪印「日印グローバル・パートナーシップ」の実質化に向けたロードマップに合意
- 2008年10月** シン首相訪日「日印グローバル・パートナーシップ」の更なる前進を確認
- 2009年12月** 鳩山総理訪印「日印グローバル・パートナーシップ」が新たな段階に入ったことを確認
- 2010年10月** シン首相訪日「次なる10年に向けた日印戦略的グローバル・パートナーシップのビジョン」
- 2011年12月** 野田総理訪印「国交樹立60周年を迎える日印戦略的グローバル・パートナーシップの強化に向けたビジョン」
- 2013年05月** シン首相訪日「国交樹立60周年を超えた日印戦略的グローバル・パートナーシップの強化」
- 2014年09月** モディ首相訪日「日印特別戦略的グローバル・パートナーシップのための東京宣言」
- 2015年12月** 安倍総理訪印「日印新時代の幕開け「日印ヴィジョン2025」」発出
- 2016年11月** モディ首相訪日「日印新時代を大きく飛躍させる首脳会談。インド太平洋地域と世界の平和と繁栄を主導
- 2017年09月** 安倍総理訪印「自由で開かれ、繁栄したインド太平洋に向けて」パートナーシップを確認



Ⅲ. インドの経済情勢について：GDP成長率

インド経済は、2017年第1Qの成長率が高額紙幣廃止、GST対応などの影響もあり5.7%と落ち込んだものの、年後半からは回復が見込まれ予想どおり6%超の成長率を達成し、来年後半からは再び7%超の高い成長に戻るとの見方が当地金融機関エコノミストの間でも一般的。



	15	16	17e	18e	19e	20e	21e	22e	%
中国	6.9	6.7	6.8	6.5	6.3	6.2	6.0	5.8	
インド	8.0	7.1	6.7	7.4	7.8	7.9	8.1	8.2	
インドネシア	4.9	5.0	5.2	5.3	5.5	5.5	5.5	5.5	
ミャンマー	7.0	6.1	7.2	7.6	7.5	7.5	7.5	7.5	
ベトナム	6.7	6.2	6.3	6.3	6.2	6.2	6.2	6.2	
世界平均	3.4	3.2	3.6	3.1	3.7	3.7	3.8	3.8	

	15	16	17e	18e	19e	20e	21e	22e	\$
中国	8166	8123	8528	9376	10121	10986	11887	12834	
インド	1628	1741	1852	1989	2164	2354	2563	2791	
インドネシア	3370	3604	3858	4116	4391	4744	5202	5662	
ミャンマー	1147	1231	1272	1395	1539	1697	1868	2048	
ベトナム	2087	2171	2306	2481	2677	2881	3096	3329	
世界平均	10320	10344	10750	11310	11773	12248	12726	13210	8

Ⅲ. インドの経済情勢について：投資

2017年6月末現在の直接投資の受け入れ累積額は342億ドルで、前年3月末（288億ドル）に比べ、約19%増加(DIPP統計)。セクター別ではサービス・セクターの受け入れが大きい。日本からの投資累積額は26億ドルで、前年の4位から英国を抜いて3位に順位を上げた。

セクター別投資受け入れ状況

単位：百万\$

順位	セクター	累積	%
1	サービス	61,359	18
2	コンピュータ・ソフトウェア/ハードウェア	25,985	8
3	建設、住宅、インフラ	25,544	7
4	電気通信	24,034	7
5	自動車	17,390	5
6	医薬	14,988	4
7	貿易	14,979	4
8	化学（肥料を含まない）	13,972	4
9	電力	11,766	3
10	ホテル・観光	9,750	3

国別投資受け入れ状況

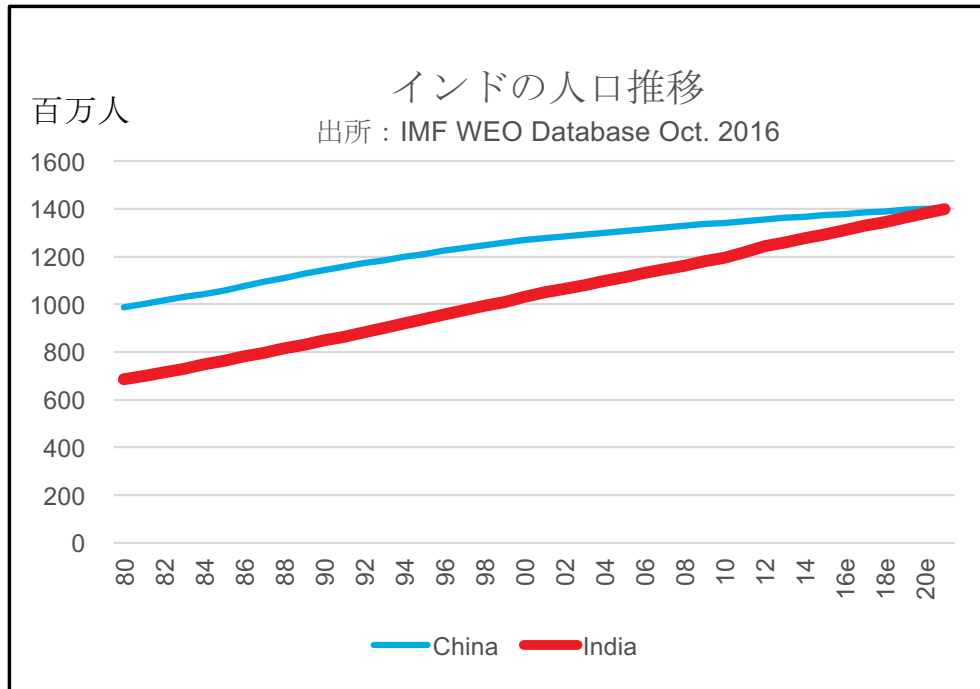
単位：百万\$

順位	国	累積額	%
1	MAURITIUS	114,931	34
2	SINGAPORE	57,600	17
3	JAPAN	26,125	8
4	U.K	24,731	7
5	NETHERLANDS	21,266	6
6	U.S.A.	20,983	6
7	GERMANY	10,496	3
8	CYPRUS	8,933	3
9	FRANCE	5,824	2
10	UAE	4,765	1
	その他	46,899	13
	合計	342,520	100

出所：両データともにインド商工省産業政策・振興局

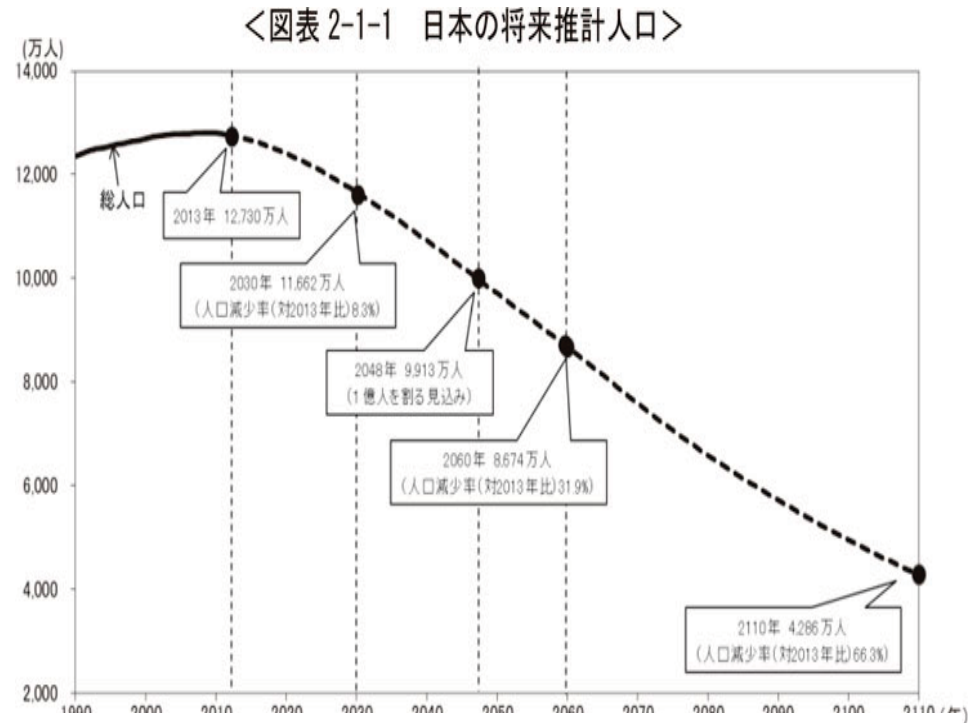
IV. インド市場について：人口

インドの魅力は何といっても人口＝市場と、全体人口に占める若い人の割合が高いこと。国連の予測（World Population Prospects 2017改訂版）では2024年にインドが中国を抜き、2030年には約15億人、2050年には約17億人になり、世界の人口の約18%を占めるとしている。



百万人

	16e	17e	18e	19e	20e	21e
China	1379	1385	1390	1395	1399	1403
India	1310	1327	1344	1362	1380	1398
Indonesia	259	262	266	269	273	276
Myanmar	52	53	53	53	54	54
Vietnam	93	94	95	96	97	97

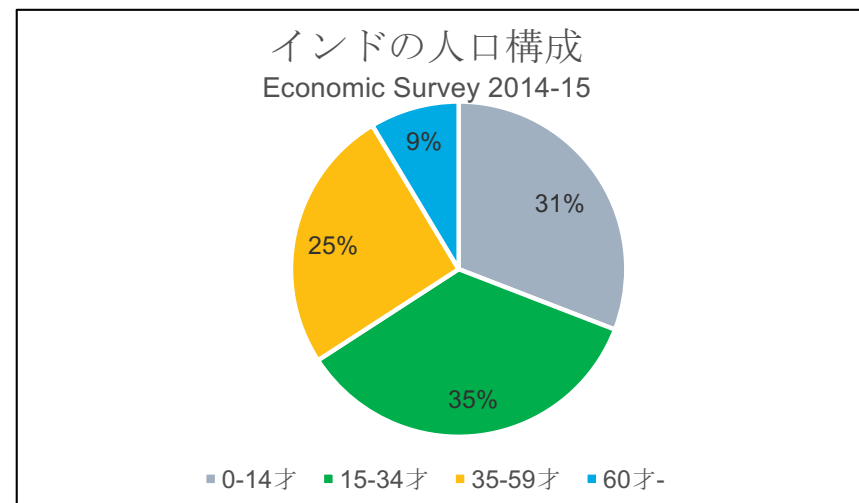
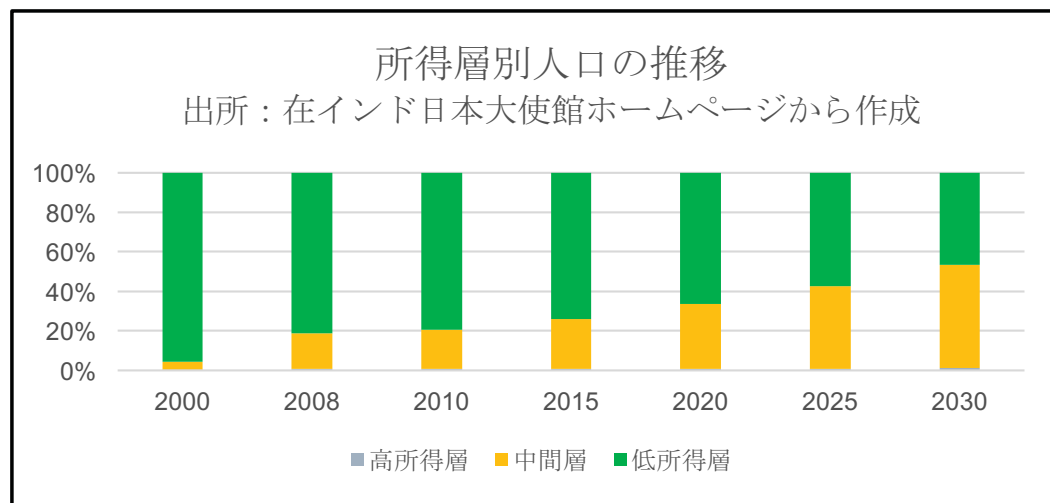


経済財政諮問会議「選択する未来」委員会報告

日本は2048年に1億人を割ると予測されている。

IV. インド市場について：中間層と若年人口

経済の成長とともに、中間層の割合が増加。所得の増加とともに四輪車、二輪車の市場も急成長。四輪では韓国を抜き、世界第5位の生産国に。二輪ではトップの中国に肉薄。



世界の四輪車生産台数 (出所：JAMAウェブサイトから)

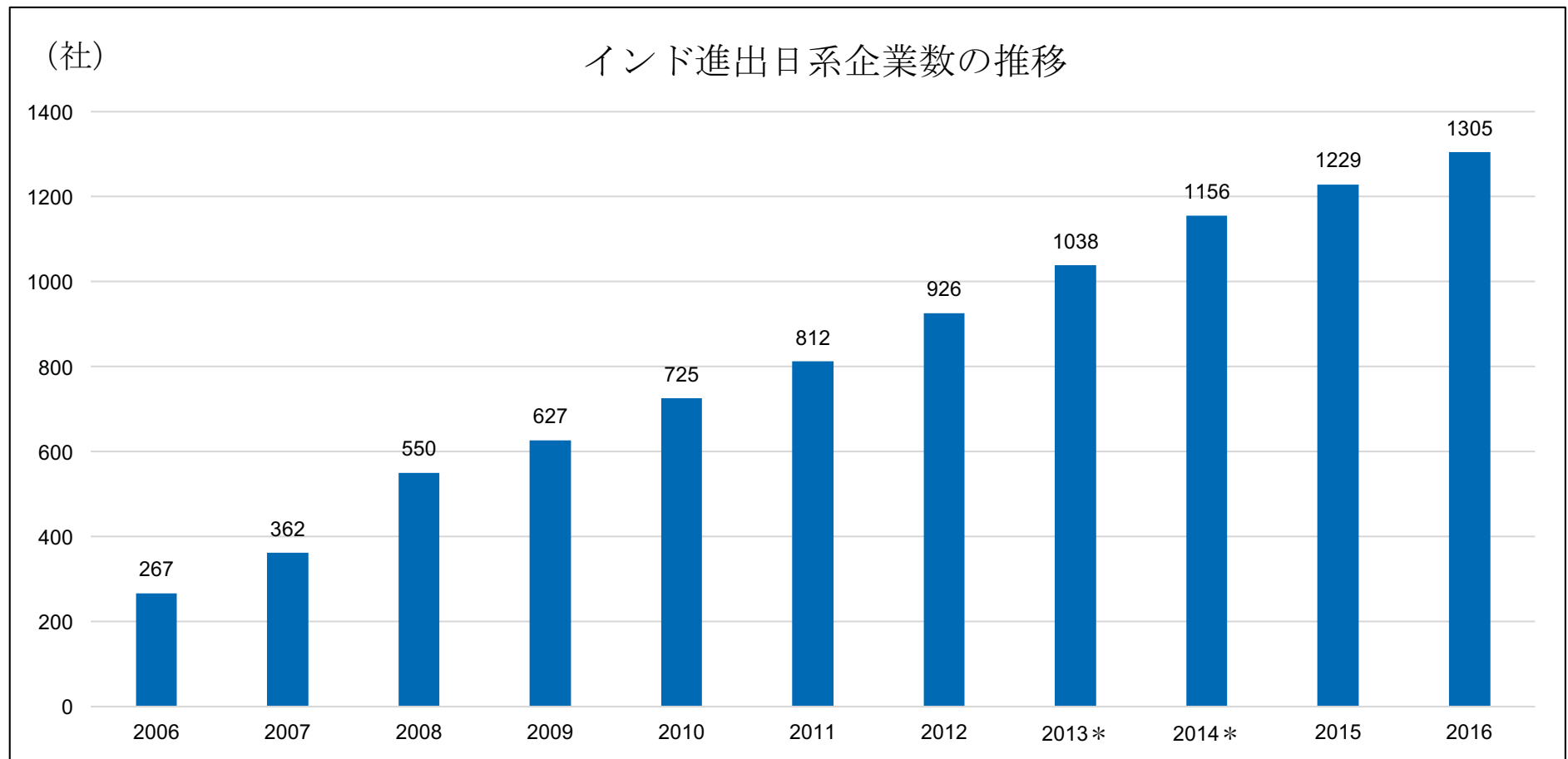
	2014	2015	2016
中国	23,731,600	24,567,250	28,118,794
米国	11,660,702	12,105,988	12,198,137
日本	9,774,665	9,278,321	9,204,696
ドイツ	5,907,548	6,033,364	6,062,562
インド	3,844,857	4,160,585	4,488,965
韓国	4,524,392	4,555,957	4,288,509

世界の二輪車生産台数(出所：JAMAウェブサイトから)

	2013	2014	2015
中国	22,889,147	21,295,105	18,832,191
インド	16,883,049	18,489,311	18,829,786
インドネシア	7,780,295	7,926,104	-
タイ	2,218,625	1,816,545	1,800,623
パキスタン	794,763	916,698	1,255,770
台湾	1,115,223	1,175,259	1,118,848

IV. インド市場について：進出企業数

- ・在インド日本国大使館及びジェトロは、各地商工会議所の協力を得て、インドに進出している日系企業の拠点情報を2016年10月現在で取りまとめ、公表。
- ・全インドにおける日系企業数の合計は1,305社。2015年と比べると76社の増加（6%増加）。



在インド日本大使館調査 2016年10月現在

IV. インド市場について：投資先／進出先

DMIC（デリー・ムンバイ）地域でインド全体の約6割の投資を吸収。CBIC*地域（チェンナイ：7%、バンガロール：7%）を加えれば約7割を吸収。進出企業数もDMIC地域に6割、CBIC地域に3割が集中。

*CBIC=Chennai Bangalore Industrial Corridor：日本企業が集積するインド南部のTamil Nadu州(Chennai),Karnataka州(Bangalore),Andhra Pradesh州を対象に、投資環境整備などを目的に日本政府が支援中の産業回廊構想。

順位	投資先	累積投資額 百万ドル	%	2006.12現在		州	進出企業数 (2016.10)	%	進出企業数 (2006.6)	%
1	Mumbai	104,415	30	7,487(24%)	DMIC 地域	Haryana	341	26	46	13
2	New Delhi	70,384	21	7,045(23%)		Delhi準州	156	12	78	22
3	Chennai	24,757	7	2,295(7%)		Uttar Pradesh	46	3	19	5
4	Bangalore	24,633	7	2,052(6%)		Rajasthan	47	3	2	0.6
5	Ahmedabad	17,010	5	970(3%)		Gujarat	29	2	4	1.2
6	Hyderabad	14,137	4	1,157(3%)		Madhya Pradesh	2	0.2	4	1.2
7	Kolkata	4,029	1	337(1%)		Maharashtra	205	16	69	20
8	Kochi	1,797	1	87(0.3%)		DMIC地域計	826	63	222	63
9	Jaipur	1,547	0.5	54(0.1%)		インド全体	1,305	100	352	100
10	Bhopal	1,390	0.4	52(0.1%)			州	進出企業数	%	進出企業数
DMIC		194,746	56.9	21,536(67%)	CBIC 地域	Karnataka	200	15	59	17
その他		147,774	43.1	10,616(33%)		Tamil Nadu	205	16	35	10
全体		342,520	100			Andhra Pradesh	12	0.2	-	-
						CBIC地域計	417	32	94	27
					インド全体	1,305		352	100	

出所:DIPP

投資先の地名は、インド中央銀行(RBI)の地域オフィスであり、当該オフィスで受け付けたFDIの集計。

出所:在インド進出日系企業リスト（在インド日本大使館、ジェトロ 2016年10月現在及び2006年6月現在）

IV. インド市場について：インド人家計の支出先

インドの家計支出の約2/3は食料/飲料、住宅及び衣類/履物に向けられている。

*Two-Thirds of the money spent by Indian households goes to "roti" **

May 09, 2017 Hindustan Times

*roti: インドで一般的に食べられている無発酵パンの一種。

セクター	インド	世界**
Food & Beverages	44.63	40.88
Housing	12.47	12.15
Energy	8.01	10.05
Clothing & Footwear	5.98	6.28
Transport	5.22	5.71
Health	4.53	4.50
Education	3.54	3.12
ICT	3.27	2.49
Personal Care	2.39	1.74
Others	9.96	13.08

出所：Global Consumption Database, The World Bank. 2016

*世銀が世界92カ国の新興国（emerging country）の家計の支出状況を調査したもの。“世界”＝インドを除いた他の新興国。

IV. インド市場について：インド人が信頼するブランド

調査会社ニールセン (Nielsen)がインドの12都市で実施した聞き取り調査をもとに作成したものをTimes India紙が報道したものの一部から。Most Trusted Brand 2015

四輪車		
1	Maruti Suzuki	日
2	Tata Motor	印
3	Honda	日
4	Hyundai	韓
5	Mahindra	印
6	Toyota	日
7	Ford	米
8	Fiat	伊
9	Skoda	チェコ
10	Renault	仏
外食産業		
1	Pizza Hut	米
2	Domino's	米
3	McDonald's	米
4	Café Cofee Day	印
5	KFC	米
6	Subway	米
7	Costa Cafe	英
8	Starbucks	米

二輪車		
1	Hero	印
2	Honda	日
3	Bajaj	印
4	TVS	印
5	Yamaha	日
6	Suzuki	日
7	Mahindra	印
8	Vespa	伊
9	Royal Enfield	印
10		
外国銀行		
1	Citibank	米
2	HSBC	英
3	Standard Chartered	英

耐久消費材		
1	Samsung	韓
2	Sony	日
3	LG	韓
4	Usha	印
5	Philips	蘭
6	Whirlpool	米
7	Godrej Appliance	印
8	Videocon	印
9	Onida	印
10	Panasonic	日
時計		
1	Titan	印
2	Sonata Watches	印
3	Timex	米
4	Fastrack	印
5	Ray-Ban	米

IV. インド市場について：インド人が信頼するブランド

	携帯電話	タブレット
1	Samsung	韓
2	LG	韓
3	Micromax	印
4	Motorola	米
5	Karbons	印
6	Sony Xperia	日
7	iPhone	米
8	Intex	印
9	Lava	印
10	HTC	12:panasonic

IV. インド市場について：進出事例

デリー市内の大型ショッピングモール（Ambience Mall, DLF Promenade, DLF Empolioの3つのショッピングモールが連なる）



IV. インド市場について：進出事例

DLF Promenadeに出店している外国企業

ショップ名	国	分野	ショップ名	国	分野
adidas	独	スポーツウエア	FOSSIL	独	時計等
Armani Jeans	米	アパレル	Hush Puppies	米	シューズ
Calvan Klien Jeans	米	アパレル	Clarks	英	シューズ
FOREVER 21	米	アパレル小売り	GEOX	伊	シューズ等
LACOSTE	仏	アパレル	HARLEY DAVIDSON	米	二輪車
MARKS & SPENCER	英	小売り	LE CREUSET	仏	調理器具
ZARA	西	アパレル	STARBUCKS COFFEE	米	コーヒーショップ
Levi's	米	アパレル	Krispy Kreme	米	食品
Reebok	米	スポーツアパレル、 シューズ	FRIDAYS	米	レストラン
NIKE	米	スポーツアパレル、 シューズ	Domino's Pizza	米	レストラン
PUMA	独	スポーツアパレル、 シューズ	DLF Promenadeホームページから筆者作成		
CHANEL	仏	化粧品			
L'COCCITANE	仏	化粧品			
LANCOME	仏	化粧品			
SAMSUNG		携帯電話			
Sunglass hut	伊	サングラス小売			

V. インドのインフラ開発について：DMIC構想

(2008. 8.16に印政府が承認したプロジェクト・アウトラインから)

- デリーとムンバイの間（1483km）に、貨物専用鉄道を日本の円借款（約4500億円）でインド政府が整備中。その沿線（周辺）に工業団地、物流基地、発電所、道路、港湾、住居、商業施設などのインフラ、産業都市を民間投資主体で整備する日印共同の地域開発構想。
- インドの地域経済の活性化、投資促進、持続的成長の達成に向け、国際競争力のある投資環境と最新のインフラを有する強固な経済基盤を構築し、「世界的な、製造業と商取引のハブ」として開発予定。
- 開発対象リアは貨物専用鉄道の両側150km-200km。
- 面積にして60万Sq.km² (日本の国土面積約38万sq.km²の約1.5倍)。
- 総開発コスト：約120兆円(100 bil. USD)
- 開発対象州はインド北西部の6州。
 - Uttar Pradesh(UP)
 - Haryana(HR)
 - Rajasthan(RJ)
 - Gujarat(GJ)
 - Madhya Pradesh(MP)
 - Maharashtra(MH)
- 開発目標（今後5年間でDMIC地域の）
 - 雇用潜在力 2倍 -工業生産量 3倍 -輸出量 4倍



V.インドのインフラ開発について：DMIC構想

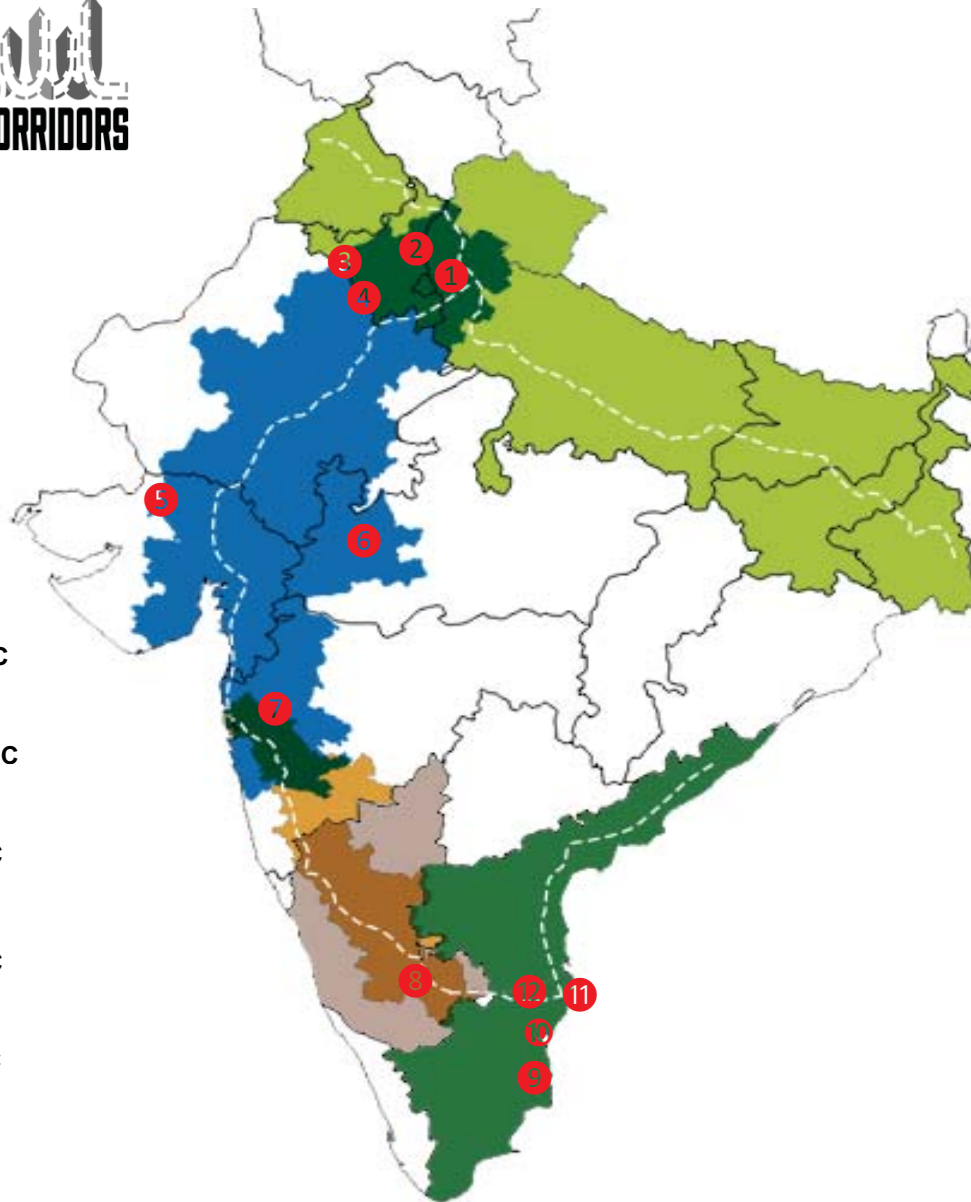
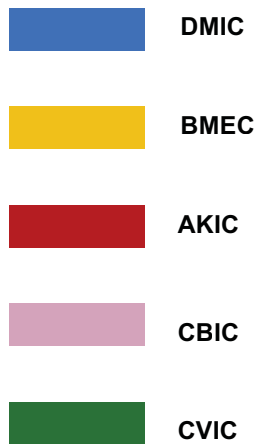
インド側は、DMIC地域において、以下の8つの拠点をスマートシティとして開発予定。うち、4つについては、本年末までに開発を終える予定であり、入居企業の募集を開始。

州	開発エリア	コンサルタント (基本計画)	開発面積 (sq km2)	土地取得 状況	開発主体(SPV) (DMICDCと州政府の折半出資 により設立)	建設請負 会社	完成時期	企業誘致の状況
UP	Dadri- Noida- Ghaziabad	Consortium led by M/s Halcrow, UK	200	302 ha	Integrated Industrial Township Greater Noida Ltd (IITGNL) (2014.3.18)	SP	2017年末頃	複数外国企業から問い合わせあり。
HR	Manesar- Bawal	Consortium led by M/s Jurong, Singapore	402	取得中	-	-	-	
RJ	Khushkhera- Bhiwadi- Neemrana	Consortium led by M/s Kuiper Compagnons, Holland	165	取得中	-	-	-	
RJ	Jadhpur Pari Marwar	Parsons Brickerhoff, USA	155	取得中	-	-	-	
MP	Pithampur- Dhar-Mhow	Consortium led by M/s Lea Associates South Asia	372.4	443 ha	Vikram Udyogpuri Ltd(VUL) (2010.3.18)	SPML	2017年末頃	複数外国企業から問い合わせあり。
GJ	Ahmedabad -Dholera	Consortium led by M/s Halcrow, UK	920	22.5 Sq km2	Dholera Industrial City Development Ltd(DICDL) (2016.1.28設立)	L&T	2017年末頃	複数外国企業から問い合わせあり。
MH	Shendra Bidkin	M/s AECOM, Hong Kong	253	84 Sq km2	Aurangabad Industrial Township Ltd(AITL) (2014.12.12)	SP	2017年末頃	インド企業16社に土地販売済。その他複数外国企業から問い合わせあり。
MH	Dighi Port	M/s AECOM, Hong Kong	253	取得中	-	-	-	

V. インドのインフラ開発について：産業回廊と工業団地



【産業回廊】



【工業団地】

No.	Sites	State	Size of Land(acres)
①	Greater Noida	UP	748
②	Jhajjar	HR	8350
③	Ghilot	RJ	500
④	Neemrana	RJ	1166
⑤	Mandal	GJ	300
⑥	Pithampur	MP	500
⑦	Supa	MH	1200
⑧	Tumkur	KT	500
⑨	Sojitz-Matherson	TN	285
⑩	One Hub Chennai	TN	1450
⑪	Ponneri	TN	300
⑫	Areas bet. the south border and Krishnapatnam Port	AP	12000(6000 acres in first phase)

VI. インド市場のSWOT分析について

強み

内的要因

- 大きな市場（世界第2位の人口）
- 中間層の拡大
- 若くて豊富な労働人口
- 比較的高い英語能力
- 親日的
- IT能力の高さ

機会

外的要因

- アフリカ、中東へのコネクティビティ
- IT技術者の活用の高いポテンシャル
- 南アジア、非同盟諸国の要(G20等)
- 印僑ネットワーク
- 地政学的な重要性（安全保障）

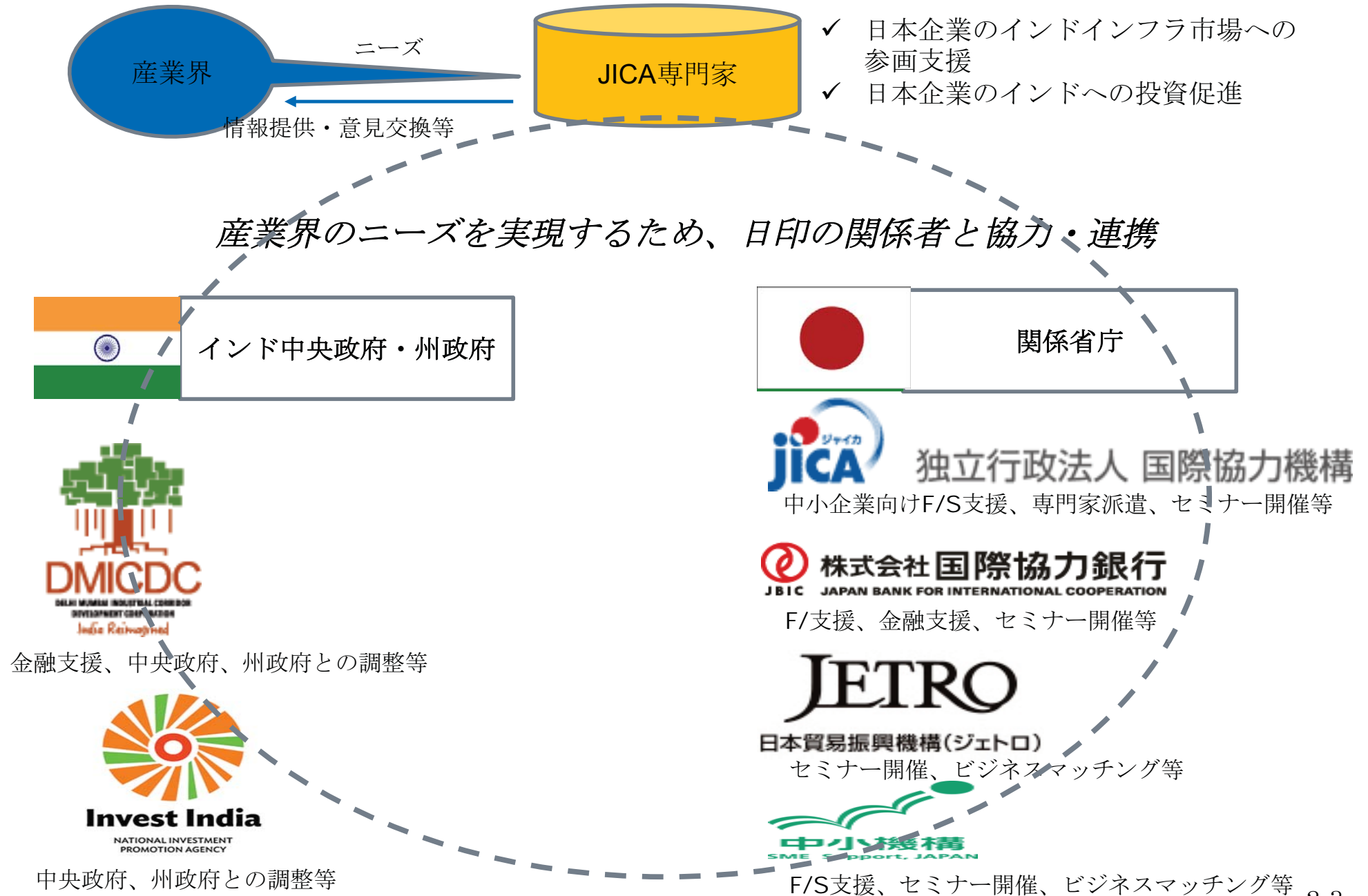
弱み

- インフラの未整備（電力、水、道路、空港、社会インフラ等）
- 恒常的な電力・水不足
- 不透明な法制度や税制
- 食事への多様性のなさ
- 厳しい気候・衛生状態
- 土地取得の難しさ

驚異

- パキスタン、中国との国境紛争
- 油価に左右される経済構造
- 貿易政策と産業政策の不一致
- 労働争議・後進カーストによる暴動の発生
- Make in India政策の厳格すぎる運用

VII. JICA専門家の役割について



参考：インドの生活環境について

経済発展に伴い、アパートも高層化、コンパクト化。
生活も便利になりつつある。

Gurgaon, Haryana州のアパートの例



アパートから5分程度の距離にゴルフ場もある



参考：インドの生活環境について

日本人が多く住むデリー、グルガオンから約30分のところに日本人学校がある。小・中学生約300人が在籍。スクールバスによる送迎あり。

病院に関しては**Fortis**病院と**Max**病院が有名な2大総合病院。



デリー日本人学校ホームページから



参考：インドの生活環境について

生鮮食品の入手には制約もあるが、比較的いろいろなものが手に入るようになって来ている。
(Gurgaon Le Marche)



参考：インドの生活環境について

生活用品の入手も比較的容易になってきている。



ご清聴、ありがとうございました。

問い合わせ先

村山勝彦 (JICA専門家)
Mr. Katsuhiko Murayama

DMICDC
Room 341-B, 3rd Floor, Hotel Ashok, Chanakyapuri
New Delhi, 110021, India
Tel: +91-88-0090-9074
Email: murayama-katsuhiko@meti.go.jp
murayamak@dmicdc.com